

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 畜産

発行日 平成24年 3月22日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 草地 除染対策（完全更新）は、プラウ耕とロータリー耕を確実にを行います。牧草の播種適期は、8月中旬から9月中旬です。一年生飼料作物を栽培後、秋に播種するか、除草剤の播種日同日処理の準備を進め秋に播種します。春に播種しなければならない場合、圃場が乾き作業ができるようになったら速やかに作業し、遅くとも5月初旬までには播種を完了させます。

1 草地除染対策（完全更新）

牧草の利用自粛の要請に基づき、牧草地再生対策事業等の活用により、プラウ耕による草地土壌の反転とロータリー耕による攪拌など除染対策として草地更新が始まります。

永年性牧草の播種は、雑草との競合を回避するなど、8月中旬以降9月中旬位が適期ですが、春以降、草地土壌の反転や攪拌が順次進むことから、イタリアンライグラスなどの一年生飼料作物を栽培し収穫後秋に牧草を播種する、耕起が春から夏の間に行われ秋に播種する、春の早い時期に牧草を播種するなどが想定されます。基本技術の徹底と応用により、牧草の定着を確実なものとしましょう。

（1）基本技術

ア 耕起

牧草の放射性物質濃度が300ベクレル/kgを超過する場合は、プラウ耕による草地土壌の反転とロータリー耕による土壌の攪拌を行います。牧草の放射性物質濃度が100～300ベクレル/kgの場合や作土が浅い、下層にれきが多いなどプラウ耕が困難な場合は、ロータリーで表層土を攪拌します。

イ 土壌改良材、牛ふん堆肥

（ア） 土壌分析結果（PH、リン酸吸収係数）と目標値（PH6.0～6.5、リン酸吸収係数の1-2%）から、石灰資材及びリン酸資材量を決定し施用します。

（イ） 牛ふん堆肥は10aあたり5tを目安に施用します。

ウ 砕土・播種床形成

バーチカルロータリーやロータリーハローなどで、砕土し播種床を形成します。粘質土壌では、大きな土塊が形成され、牧草の発芽・定着を阻害するので、砕土作業はゆっくり丁寧に行います。また、何回か機械を走行させることも播種床形成に有効です。

エ 施肥・播種

下表の播種量、施肥量を目安にブロードキャスタ等で播種・施肥します。縦横十文字の施肥と播種はまきムラ防止に有効です。

造成時の必要種子量、施肥量を目安 (kg/10a)

牧草種類	種子	化成肥料		
		窒素	リン酸	カリウム
イネ科主体	2.5 前後	7～10	10～15	4～7
混播	2.5 前後	7～10	10～15	6～8
マメ科主体	2.0	4～5	10～15	10～15
アルファルファ	2.0	4～5	10～15	15～20

オ 鎮圧

牧草と土壌を密着させ発芽率を向上させるため、ケンブリッジローラで鎮圧を丁寧に行います。

- (2) 一年生飼料作物を栽培し秋に永年性牧草を播種する、雑草を枯殺し秋に永年性牧草を播種する場合
 永年性牧草の播種は、雑草との競合を回避するため8月中旬以降9月中旬位が適期です。このため、5月～6月にイタリアンライグラスやエンバクなど一年生飼料作物を栽培し、秋に永年性牧草を播種する場合と、一年生飼料作物を栽培しないで7月中旬くらいまでに耕起と砕土・播種床形成を終了し、その後雑草を30cm～40cmまで十分生育させてから、グリホサート系非選択性除草剤の散布と播種を同日もしくは数日の間に連続して行う場合があります（除草剤の播種日同日処理）。特に、春に一年生飼料作物を栽培しない場合でシバムギやリードカナリーグラスなど地下茎型雑草が占有する圃場では、プラウ耕でも地下茎型雑草を駆逐できない場合が多いため、除草剤の播種日同日処理が有効です。

ア イタリアンライグラスやエンバクなど一年生飼料作物の栽培

- (ア) 耕起、砕土・播種床形成は草地更新作業と同様です。
- (イ) 播種から収穫までは、概ね2ヶ月です。
- (ウ) 土壌改良材（石灰とリン酸）は、草地更新に必要な量を施用します。牛ふん堆肥は、10aあたり2～3tを目安に施用します。
- (エ) 化成肥料と種子は、下記の表を目安に施用、播種します。

イタリアンライグラス、エンバクの播種量と施肥量を目安

	種子量 (kg/10a)	化成肥料(kg/10a)		
		窒素	リン酸	カリウム
イタリアンライグラス	3～4	10	2	10
エンバク	2.5 前後	10	2	10

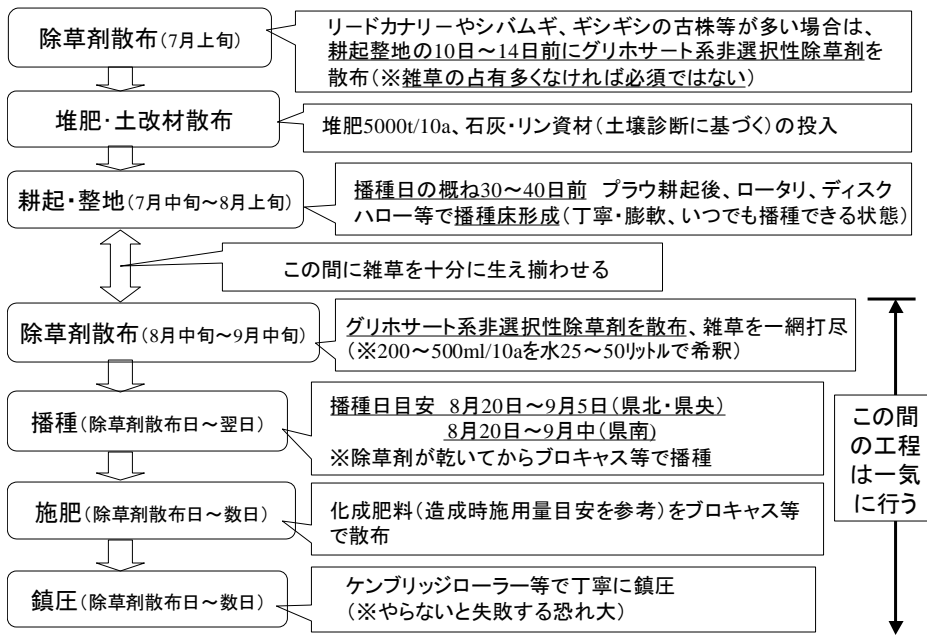
イ 草地更新

一年生飼料作物の収穫後は、基本技術（前出）により草地更新を行います。

ウ 除草剤の播種日同日処理

雑草の繁茂を抑制し、確実に草勢を確保するのに有効な方法です。播種床を予め作成し、雑草を十分に生育させておくこと、雑草に付着した非選択性除草剤が乾いてから播種すること、播種から数日のうちに鎮圧まで終了させることに留意します。

除草剤の播種日同日処理の概要



(3) 春に播種しなければならない場合

(遅くとも5月初旬までに播種が完了、シバムギやリードカナリーなどの占有がない圃場)

春播種の場合、播種適期ではないことから、播種時期が遅くなると、雑草との生育競合に幼牧草が負け、更新が失敗します。また、シバムギやリードカナリーなど地下茎型雑草の多い圃場は、グリホサート系非選択性除草剤で枯殺しなければ、再度占有されます。

春に播種しなければならない場合で、遅くとも5月初旬までに播種が完了できる見込みであり、地下茎型雑草の占有がない圃場は、以下に留意しながら更新を実施します。

ア 播種は、圃場が乾き作業が可能となり次第速やかに行い、遅くとも5月初旬前に終了します。可能であれば播種量を数割増し、更新圃場の幼牧草の密度を高め、雑草の繁茂を防止します。

イ オーチャードグラスにイタリアンライグラスを少量混ぜることも有効です。イタリアンライグラスは、初期生育が旺盛で雑草防止に有効です。ただし、混ぜる量が多いとオーチャードグラスが被圧され、秋に追播が必要となるので、イタリアンライグラスの混播量は1割程度とします。

ウ 播種後40日位経過し、一年生雑草が繁茂する場合は、掃除刈りまたは選択性除草剤の散布を行います。

(ア) 掃除刈りは、地上部からの刈取高10～15cmで行います。牧草の根を傷めないように作業は低速で行います。モア等は十分研磨し、牧草株の引き抜きを防止します。刈り取り量が多い場合は、圃場外に持ち出し、日陰を作らないようにします。

(イ) 除草は、次ぎの選択性除草剤により行います。

草地の選択性除草剤

主な雑草	除草剤	10aあたり散布量		使用回数	使用上の注意事項
		薬液量	希釈水量		
ギシギシ類 キク科雑草	アージラン 液剤	400～ 600ml	80～100 l	1回	<ul style="list-style-type: none">・ 6月～8月は使用できない・ アルファルファ新播草地では薬液量 200～300ml/10a とする・ 散布後7-10日は牧草を利用しない
ギシギシ類	ハーモニー 75DF 水和剤	3～5g	100 l	1回	<ul style="list-style-type: none">・ クローバーに薬害がしやすい・ 薬剤溶解後速やかに使用する・ 散布に用いた器具は、消石灰 500倍溶液で洗浄し、他用途の薬害を防止する・ 散布後21日間は牧草を利用しない